

出前移動展「アイヌ語通辞（通訳）加賀伝蔵物語」

この度、刊行しました絵本の出前移動展（パネル）を開催しています。

- 場 所 西公民館ロビー
- 期 間 9月10日(火)午後1時～24日(火)午後3時まで



奥行臼散策デーのお知らせ！

奥行地区文化財を巡るイベントが今年も開催されます。ぜひお気軽にご参加ください。

- 日 時 9月29日(日)
午前10時～午後2時
- 主 会 場 旧奥行臼駅通所（奥行15番地12）
- 主 催 別海町教育委員会
- 共 催 NPO 法人別海町文化財ネットワーク
- 内 容
 - ・乗馬体験
 - ・奥行臼駅トロッコ乗車体験（乗車記念キップ付き）
 - ・別海音頭・野付音頭手踊り披露（午前10時・午後1時）
 - ・軽食提供（コーヒー・甘酒・クラッカーなど）
 - ・奥行地区文化財見どころツアーガイド（午後1時15分駅通所前集合）
- そ の 他
 - ①お車は国道沿いの奥行駐車場または、奥行会館駐車場に止めてください。
 - ②乗馬体験は馬の体調により時間を短縮する場合があります。



新たに発見されたマンモスゾウの臼歯化石の年代測定が行われました。

令和6年4月26日（金）、野付半島外海にて、ホタテ漁をしていた安達隼人さん（尾岱沼）が、マンモスゾウの臼歯化石を発見し郷土資料館に寄贈されました。

寄贈された化石の正式な鑑定を滋賀県立琵琶湖博物館名誉館長の高橋啓一氏に依頼し「右上顎第1大臼歯」であることがわかりました。国内で15個目、根室海峡では6個目、野付半島外海で4個目（当館所蔵）となりました。

郷土資料館では、年代測定を依頼し、この度、4万2000～4万1000年前に制作していたマンモスゾウであることが、わかりました。現在常設展示室で公開中ですので、貴重な資料をぜひ、ご覧ください。



殖民軌道根室線開通 100 周年記念フォーラムのお知らせ！

日本遺産『鮭の聖地』の物語—根室海峡 1 万年の道程」の構成文化財である旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所は、その源流を 1924（大正 13）年に開通した殖民軌道根室線に持つ。海岸部から内陸部への開拓が始まった大正期から昭和初期にかけて整備された殖民軌道、戦後に動力化されて廃止されていった簡易軌道の歴史を振り返り、その歴史観光的活用の可能性を探ります。

●主 催 鮭の聖地メナシネットワーク

●期 日 令和 6 年 9 月 28 日（土）
午後 3 時 15 分から午後 5 時 45 分

●場 所 別海町青少年プラザホール

●内 容

- （1）基調講演 石川孝織氏（釧路市立博物館副館長）
「北海道の生活を支えた殖民軌道・簡易軌道」
- （2）講演 佐々木正巳氏（元雪印メグミルク別海工場長）
「簡易軌道跡探訪記～掘り起こされた開南の転車台」
- （3）講演 清水一史氏（九州大学大学院教授）
「簡易軌道ディーゼル機関車動態保存の経緯について」
- （4）報告 戸田博史（別海町郷土資料館主幹）
「別海町の殖民軌道・簡易軌道遺産とその活用について」

（5）別海村営軌道風蓮線思い出話座談会

聞き手 石川孝織氏・戸田博史

語り手 別海村営軌道風蓮線元運転手 吉田利治氏
別海村営軌道風蓮線元車掌 堀込哲夫氏
別海村営軌道風蓮線元乗客 加藤エミ子氏



別海町郷土資料館だより No.302

発行日 令和 6 年 9 月 1 日
発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町 30 番地
電話 0153-75-0802（FAX 兼）

編集後記

8 月の入館者ですが、道外の方が半分を占めました。夏の時期は、特に多いのですが、今年は、コロナ禍前の 1.5 倍の数です。いよいよ、人が動き出したと感じるところですが、天候がいまいちで、道東らしさが半減しています。これからは、台風の季節になりますが、大きな被害がないことを祈ります。